

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2974800126		
法人名	(株)ハートフルトラスト		
事業所名	グループホームかつらぎの里 (さくら)		
所在地	奈良県葛城市葛木17-2		
自己評価作成日	令和3年12月13日	評価結果市町村受理日	令和4年2月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

レクリエーションを毎日 2時間は提供している。毎月 行事は必ず行っている

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人カオア
所在地	大阪府泉佐野市泉ヶ丘四丁目4番33号
訪問調査日	令和4年1月17日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、葛城山の麓の田園風景が広がる住宅地の中に立地し、家庭的な雰囲気の中、穏やかに過ごせる環境にあります。管理者を中心にスタッフの表情も明るく、前向きな姿勢でケア向上に向けて取り組まれており、「穏やかな日々には安らぎと安心を」理念に沿った笑顔を大切にす支援に取り組まれています。地域や関係機関との連携を大切にされ、日常的に交流を図ることで、良好な関係を築かれ、緊急時など、状態に応じた支援が行える体制を整備しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに○印 ↓	項目	取り組みの成果 該当するものに○印 ↓
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族の1/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中でその人らしく暮らし続けられるよう事業理念を共有しその人の慣れた環境や希望をとりいれている	理念を各階に掲示され、ミーティング時に唱和するなど、職員間で確認しながら、日々実践できるよう取り組まれています。笑顔を大切にされていることが、職員姿勢やヒアリングでその様子が伺えました。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	管理者と職員は理念を共有し馴染みの地域サービスを意識的に利用するなど地域と交流している	コロナ禍の影響もあり、日常的な関わりが減ってきていますが、コーラスやギター演奏、傾聴ボランティアなどを受け入れ、地域交流が図れる活動を継続しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェ(R4. 1月予定)や当事業所の事例検討会を定期的に行い支援方法等を公開している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度の運営推進委員会では事業報告や事故報告等を行い家族や近隣の民生委員より意見をもらいサービスに活かしている	定期的に開催され、入居者家族や民生委員、行政の方が参加し、ホームの現況や行事などの報告が行われています。会議の中で、事例検討会を開くなど現況に合った話し合いが行えるよう取り組まれています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者の推進会出席や電話等で課題のある利用者についての相談や助言で関係を築いてる。	日常的にホームの状態など話す機会を作り、連携を図っています。顔見知りの関係を築くことで、緊急時等の連絡・連携が迅速に行える体制が整えられています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「禁止対象となる具体的な行為」について代表者及び職員が周知している。車いすの安全ベルト使用等は家族より使用許可を得る転倒、不穏時にドアを施錠することもあるが自由な出入りが基本。	玄関やフロアの扉は安全に配慮し、施錠していますが、身体拘束の弊害については、定期的に研修等で勉強する機会を作り、職員へ意識づけを行っています。閉塞感を感じないよう、庭を散策するなど、自由に出入りができるよう心がけています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「高齢者虐待」についての資料の回覧で学び、会議等での課題報告時に意識的に介護について見過ごし等について話し合いして防止していく		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市町村の「権利擁護」に関する研修の参加や資料等から学んでいる。利用者の家族関係などから後見人の説明、案内を行っている。不明点は社協に尋ねている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には不明点に対して利用者や家族が納得するまで説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見、不満、苦情は常時に電話、又は直接伝えられるよう相談窓口を設けている	日々の連絡や面会時に積極的にコミュニケーションを図り、意見の収集に努めています。家族へ毎月、状況報告書を送り、ホームの生活が分かりやすく伝えられ、生活に対する要望を聞き出せる環境を整えています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2か月に一度の全体会議の開催で職員が自由に代表者に意見を述べるができる。その時点で改善できることはしていく	管理者と話しやすい関係性を築かれ、定期的開催するスタッフ会議や日々のミーティングの中で、職員から提案を聞く機会を設けています。必要に応じて、個別面談を行い、より意見の出しやすい環境に配慮しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	シフトの調整。2か月に1回の全体会議で就業環境の改善について話し合い給与面等改善されつつある		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの力量を考慮し研修期間の長さや仕事内容を個別に定め少しずつトレーニングしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の特養と交流し勉強会などに参加を依頼。人手不足時に手伝いに行き交流		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時に正確なアセスメントで本人の困っている事や要望を傾聴し施設側に伝えてサービスがスムーズにいくようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	何に困り、なぜ入所を希望したのかをよく傾聴して家族が安心できるようサービスを提供できるようコミュニケーションを図るようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族関係 身体状況等 傾聴に根ざしたアセスメントで家族が一番望んでいるサービスが何か 見極めて説明して納得してもらう		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分でできることは自分で行ってもらい、職員と一緒にできることは介助で行う。食事の下準備、食器洗い、整理整頓を一緒に行っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の認知症の信仰状況などを家族に伝え排泄状況 問題行動なども共に支えていく関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人の面会の機会を多くもってもらおうようすすめている 日常 本人の出身地、病院、買い物場所など会話の中に入れるようにしている	現在は、コロナ禍で控えていますが、昔のなじみの美容室に行ったり、友人や知人の面会を積極的に受け入れたりするなど、馴染みの関係が継続できるよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気のあう利用者が交流できるよう席の配慮をしたり作業を一緒にできる環境を整備する。利用者個々が孤立しないように、お互いあたたかい気持ちをもてるようにする		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても 次の施設等の疑問点など必要に応じて答えている。利用者の配偶者の支援相談等		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時のアセスメントや普段の生活の中で職員全員が本人のおもいや意向に関心を払い把握して介護に反映させている。計画書に本人の希望や意向を記載	入居時に本人や家族から、意向や希望を聞き、職員へ共通理解を図っています。又、日々の関わりの中から積極的に声かけを行い、表情や行動からも意向の把握し、支援に活かすよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント時に本人や家族よりの聞き取りや「暮らしの情報シート」から本人の生活歴や入所までの経緯を知り、その人らしい生活を支援している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の個人の生活習慣や心身状況にあった一日の過ごし方をしてもらっている。チーム全体が同じ時間に同じ事をしてもらうのではなく、その人の体調、意向にそって生活してもらっている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスや朝礼申し送り等に本人がよく暮らすための課題やケアのあり方についてワーカー同士、話し合い、介護計画に反映させている。	定期的に介護計画を見直しされ、状態の変化など、日々職員間で確認しながら、話し合っています。家族へ月次報告で状態を説明し、家族から意見を聞く機会を作っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ケース記録、日誌、申し送りノートに利用者個人の事実やケアの気づきを記載し、それをケアマネや主任は定期的に目を通し介護計画や実際のケアに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人の身体的状況・生活習慣・生活等に応じてサービスを柔軟に変えて支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源として、傾聴ボランティアで歌・ゲーム等のボランティア・折り紙・習字の先生をお願いしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のかかりつけ医を希望する場合は優先している。協力医を主治医とする場合は十分な説明をしている。整形・皮膚科・歯科などの本人希望の受診機関に受診付き添いをしている	かかりつけ医は希望を聞き、入居前から診察を受けていた医療の受診を継続できるよう支援しています。協力医は平日(月～金)まで毎日、往診に来ており、状態の把握に努め、職員と十分な連携が図れています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	退院後のリハビリや体調変化等 必要時に訪問看護サービスを導入し介護職より実際の情報を伝えてもらい適切な指示を受けられるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーを提示し、入院が長期に及ぶ時は病院に訪問し情報交換を行っている、退院時には出来るだけ早く介護変化等、介護職に伝えて主治医に情報提供を渡す		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化した場合、入浴等 又は医療管理など当施設で可能か話し合い・方針等を家族に伝え今後の支援をしていく	入居時、終末期のあり方について、事業所としての方針の説明を行っています。重度化や状態に応じて、家族と話し合い、支援の方向について、家族・職員・医療者と連携し、意向を確認しながら、医療機関や他施設(特養)への支援も行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故の事例等を職員等に見せたり、実施にて応急手当等を行う		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災担当者を決めて、その指示のもとに、説明。地域の消防とも連携している	定期的に火災を想定した訓練を実施されています。緊急連絡体制や非常災害時に対するマニュアルを整備され、職員へ伝達しています。又、災害に備えての備蓄もされています。	夜間想定訓練を実施し、動きを確認しながら、よりマニュアルが活かされるような取り組みを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人にとって不利になる情報、本人、家族が話したがる事柄等、とりわけプライバシーの確保に努めている、プライバシー保護の資料を回覧して確認している	入居者個々のペースに合わせ、優しい言葉がけで、支援を行い、家庭的でありながら、馴れ馴れしくならないように心がけ、一人ひとりの尊厳が守られるよう支援しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	難聴の方には筆談・ジェスチャーで、こちらの意向を伝えて自己決定を促している、又、認知症の方の表情や態度をよく観察して本人の希望を判断している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活ペースを尊重して、施設の決まりごとにあてはめないようにしている、入浴や食事の拒否あれば時間帯をかえたり部屋食にしたりしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	アクセサリーの持ち込み自由で、毎回のオシャレを楽しみにしている人がいる。お化粧品も自由にしてもらっている。服装も季節的にかたよりしなければ本人の好みで選んでもらっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な人には食材の下準備、おぼん、はしおかず などの配食 片付けを行ってもらっている(口腔体操・季節の食材の説明)	食事は外部に委託、栄養のバランスの考えられたメニューで、職員が加熱調理、盛り付けなどを行い提供しています。入居者と配膳を行うなど、できることは一緒に行えるよう支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量のチェック・給食会社による、栄養バランスを考えたメニュー、糖尿病の方へのカロリーコントロール、咀嚼力を考えた食事形態など個人に応じた支援を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔清掃の声掛け、できない人には介助し歯間ブラシの使用で清掃している。居宅管理指導で1週間1回の口腔衛生管理		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一時的にオムツ使用になっても不必要となったときは布パンツ等に変更、夜間でもトイレでの排泄を基本とする、定時のトイレ誘導によりオムツを汚す回数を減らすようにしている	できるだけトイレでの排泄ができるように支援しています。一人ひとりの排泄パターンを確認し、職員間で共有しながら、その人に合わせた排泄支援を心がけています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックで3日以上便秘を服薬で予防している。水分の促し		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望、体調等で入浴を午前にしたり午後にしたり、拒否のある人には無理強せず後日に入浴してもらい、入浴を嫌にならないようにしている	週2回入浴支援を行い、本人のペースに合わせ、支援しています。体調など状態に合わせ、日にちや時間を変更するなどの配慮を行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の生活習慣や体調やリズムを考え、居室での午後の昼寝、リビングでの休憩等を本人に促し本人の意思で行ってもらう		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者服薬内容についての情報は事務所で調べる事が出来る。症状の変化による薬の同量や形態について居宅療養の薬剤師に相談、飲みわすれないように薬管理、手順を決めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	脳トレ計算 言葉遊び 塗絵 貼り絵 等、本人に無理強せず、やりたいことをしてもらっている、カラオケ・ゲーム等、本人が喜び、能力に合ったものを行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望にそって戸外の散歩にち努めている、利用者を順番にドライブ等で戸外に出出している、家に帰りたい時は、家族に依頼	コロナ禍で外出は控えられていますが、ホームには広い庭があり、天気の良い日は、散歩したりするなど、外気に触れる機会を作っています。又、希望される方には、ドライブで車窓見学に行くなどの支援も行っていきます。	コロナ禍が落ち着けば、利用者の要望に応じて外出の機会を設けたり、家族との外出の機会や、庭などを活用しながら、楽しみの広がる活動の実施を期待しています。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は事務所に預かり、その点を本人に伝えている。本人がお金を持って買い物する事はしていない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望で 家族に職員がつなぎ電話している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	十分な換気 温度調整 TVの音量 等等配慮している	共用スペースは、入居者の作品と共に季節を感じる飾り付けが行われ、居心地よく過ごせるよう、ソファを配置し、入居者同士が談笑しながらふれあう環境を整えています。	和室や共有スペースの整理整頓を進め、スペースの有効活用を行い、より個別ケアの充実が図れるような空間づくりを検討されてははいかがでしょうか。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気のあった利用者同士座れるよう席の配慮をしたり 一人を好む人は自由に座ってもらい干渉しないようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的にはリビングのソファは自由席で好みのソファ・クッション・座布団、ひざ掛け等を利用し居心地良く座ってもらうように工夫している	居室には、使い慣れたタンスや家族の写真、趣味のもの等が持ち込まれ、居心地よく過ごせるよう配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	3つのトイレ位置(洗面所・浴室の位置・を明確にし自分で排泄や洗面できる人は自分でやってもらっている		